

益々好評 早生チモシー「ホライズン」

平成18年春より本格販売しておりますチモシー早生品種「ホライズン」は、春の生育が優れ、多収であると好評を得ております。「ホライズン」は「ノサップ」よりも約2日程度早く、クンプウよりは1週間ほど早い早生品種です。雑草とマメ科との競合性を改良したために、2番草の生育が改善され、出穂茎数も多くなりました。

図はケンタッキーブルーグラスとレッドトップを播種した圃場に、育苗したチモシーを定植し、2ヵ年刈り取り管理を行った後3年目の春に生存個体数を調査した結果です。1、2年目の夏期間は高温に経過したために、再生の劣る品種は枯死個体が多い結果となりましたが、「ホライズン」は良好な結果でした。また、この試験から、レッドトップの出穂にあわせて刈り取ると中晩生品種の生存個体率が少なくなり、雑草の多い圃場では中晩生品種は永続性が劣ると推察されます。

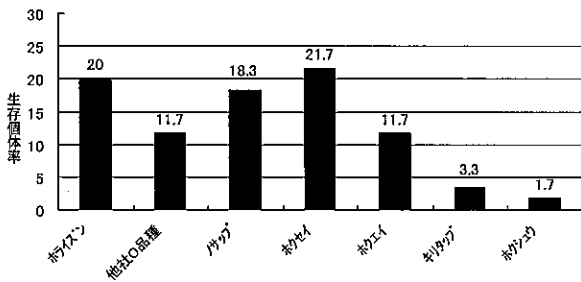


図 3年目春の生存率(%, '99年5月移植、'01年5月調査)

リードカナリーグラスとの競合を確認するためにオーチャードグラス「トヨミドリ」とチモシーの各市販品種をリードカナリーグラスと混播する試験も行いました。結果は図と同様にチモシーは早生品種ほどリードカナリーグラス割合が少ない傾向でありました。注目すべきはオーチャードグラスの混播区は殆どリードが混入しなかったことであります。リードカナリーグラスの侵入を遅らせる方法の一つとしてオーチャードグラスの利用は欠かせないものと考えられます。

ホライズンの収量性を表に示しました。1番草は「ノサップ」と同程度であります。2番草が多収なために、年間合計では5%ほど多収になります。

表 ホライズンの各場での収量性(2ヵ年合計)

品種名	北農研	畜試 滝川	天北 農試	根釧 農試	北見 農試	畜試 新得
ホライズン	103	106	103	103	105	109
ノサップ	146.6	271.0	190.0	191.5	127.2	213.9

注) ノサップは実数 (kg/a)、ホライズンはノサップ対比

ホライズンとの混播には
アルファルファ「ケレス」が最適です。

根釧地方においてアカクロバに代えてアルファルファ「ケレス」の利用が増加しております。この地域は雪が少なく気温が低下するために凍害・断根によりアルファルファの栽培は困難とされておりましたが、5年前より別海町の草作りに熱心な酪農家さんの協力を得て試作を開始したところ栽培が可能となりました。更に、平成19年から20年の冬は5年間の中で最も雪が少なく気温が低くなり、凍害の発生を心配しましたが写真に示すように5年前に更新した草地は勿論のこと昨年の8月播種草地のアルファルファも越冬しておりました。播種当年は直根が確認されますが、断根のためか2、3年目からは横に伸長し、5年目には写真のような状況になります。

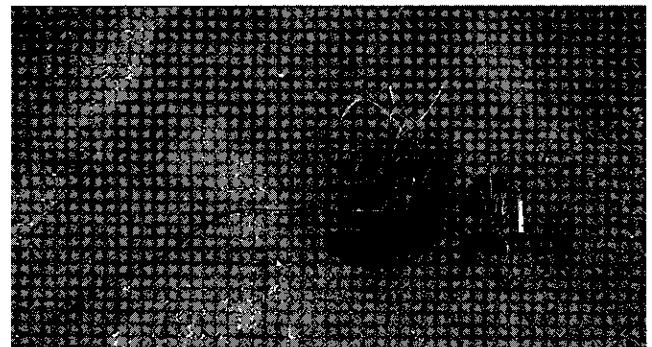


写真 左から5年目、3年目、2年目の個体と根の状況

ケレスの利用方法

アルファルファの単播利用はなかなか難しいため、アカクロバの代わりに混播してみるとよいでしょう。混播量はヘクタール当たり2~5kg前後、マメ科が優占する地帯では少なく、冷涼な地域では多めにします。また、アルファルファはギシギシ用の除草剤「ハーモニー」の薬害が少ないために、アカクロバの代わりに混播される方も増えております。混播するイネ科はチモシーであれば2番草の生育が旺盛で、出穂茎数の多い「ホライズン」が適しており、オーチャードグラスは晩生品種の「バッカス」が適しております。

輸入飼料が高騰しておりますので、高品質化のために積極的に更新し、アルファルファを混播してはいかがでしょうか。シバムギ草地から乳は搾れません。土→草→牛の循環を見直しましょう。

(寒地牧草・飼料作物研究グループ 高山リーダー)

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911

FAX (011)891-5774